

12月12日 「国際子ども平和賞 川崎レナさん」

二週間、代表委員会の皆さんが中心となって行った「あいさつ運動」が先週の金曜日に終了しました。この2週間で、皆さんのあいさつの力が高まり、たいへん嬉しくなりました。あいさつは、人と人とを結ぶかけはしと言われていきますし、社会全体でも大切にされています。これからも「あいさつがすばらしい桜野小」と周りから言われるように、よい習慣として身に付けていきましょう。

また、縄跳び旬間も始まっています。中休みに鳴る音楽に合わせて、楽しそうに跳ぶ練習をしています。皆さんの技術がだんだんと高まっていて、びっくりしています。練習が上達のための近道です。友達と励まし合いながら、縄跳びの練習をしていきましょう。

さて、この写真を見てください。知っている人もいるかと思います。ここに写っているのは、川崎レナさんと言って17歳の高校生です。「国際子ども平和賞」で今年、46か国の175人の応募者の中から、日本人として初受賞した人です。国際子ども平和賞とは、子どもの権利の向上に大きく貢献した若者に毎年一人に贈られます。

川崎さんは、8歳のときに読んだ本で、世界には政治的な事情から教育を受けられない子供が多くいることを知り、行動を起こそうと決意したということです。14歳の時にNGO団体を立ち上げ、子供と政治家がオンラインでやり取りできる仕組みを作るなど、若い人が政治や社会に積極的に参加できるように行動しています。このことが高く評価されたということです。

川崎さんは「今回の受賞は、日本の若い人たちにとって重要な方向性を示しています。日本人が世界で活躍し闘い続けるための力をもらいました」などと喜びを語りました。

子供や若い人のことを思い、さらに、みんなの幸せを求め行動している川崎さんを素晴らしいと思いました。皆さんも、人のために何ができるか考え、小さなことからやってみましょう。